

注意点1

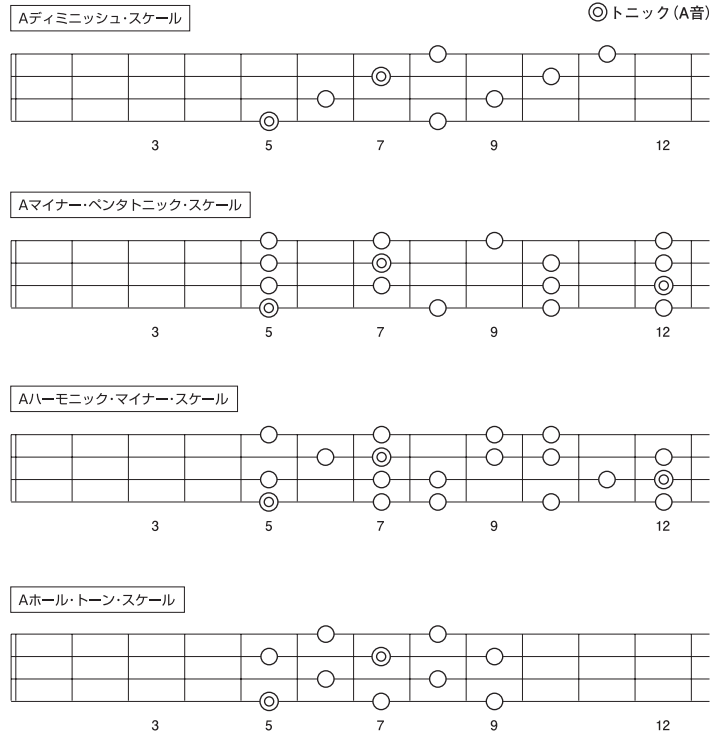


理論

さまざまなスケールを覚えて多彩な雰囲気を出そう!

このページのエクササイズでは、メジャー、マイナー以外のスケールを使っている(図1)。メイン・フレーズを構成するディミニッシュ・スケールは、不気味で悪魔的な響きを持ち、トニックから全音と半音を交互にくり返すインターバルとなる。梅は、マイナー・ペンタトニック・スケールで構成されている。5つのスケール音からなるマイナー・ペンタは、ロックを演奏する上では必要不可欠で、1本筋のおった男を感じさせるような響きがたまらない。クラシカルな雰囲気を醸し出す竹は、ハーモニック・マイナー・スケールによるフレーズだ。ハーモニック・マイナーは、前項目で紹介したナチュラル・マイナーの第7音のみが半音上がった音階になる。やや独特な運指になるため、事前にポジションを頭に入れておくとよいだろう。松は、ジャズなどで登場することが多いホール・トーン・スケールで作られている。何ともいえない不安感が漂い、TVの理数系クイズ番組で出演者が問題を考えている時に流れているような響きだ。このスケールは、すべての音が全音の間隔で並んでいるので、ポジションは意外と覚えやすい。フレージングの幅を広げるため、ここで4つのスケールを必ず頭に叩き込もう。

図1 4つのスケール図



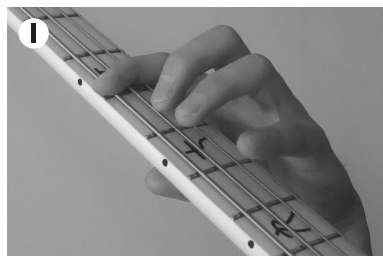
注意点2



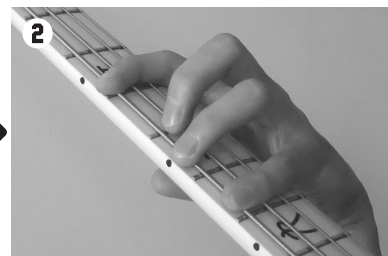
理論

フレーズの区切りを正確に理解しておくべし!

注意点1でも解説したとおり、このメイン・フレーズはディミニッシュ・スケールによって構成されている。全体的にフレットの間隔が4フレットずつという運指になるので、人差指と小指を1セットにして、左手を動かしてみよう(写真①&②)。常に次のポジションを目で追うと、スムーズなフィンガリングになるだろう。また、1~3小節目までは、リズム・トリック【註】になっている(図2)。この部分は、1小節目で1つの音の区切りとなるのだ(1小節目~2小節目2拍目までと、2小節目3拍目~3小節目の終わりまでが1ブロック)。実際に演奏する時には、リズム・トリックに惑わされてリズムに正確に乗れないことが多いので、4分音符のリズムをしっかりとることが大切だ。ディミニッシュ独特の運指とリズム・トリックをしっかり身につけるため、遅いテンポからじっくり練習しよう。



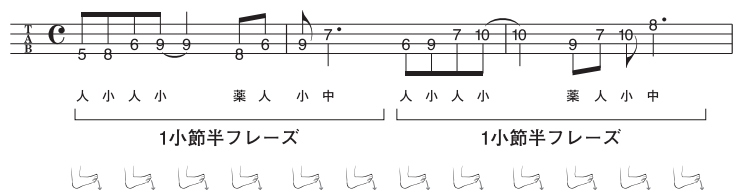
① メイン・フレーズ1小節目1拍目。まずは6弦5fを人差指で押弦して……。



② 続いて、小指で8fを押さえる。ディミニッシュでは、この4f間隔が続くので、左指に確実に覚え込ませよう。

図2 リズム・トリック

・メイン・フレーズ1~3小節目



4分音符のタイミングで足踏みを入れながら演奏しよう。